



『もっと！！本野通信』 No.42

諫早市立本野小学校長 永井 洋

若者の姿に感動しました

12日、「諫早市二十歳の集い」が諫早市中央体育館（内村記念体育館）で開催されました。市内各校には、案内が届きますので、わたしが本野小を代表し参加させていただきました。自分自身の時は「成人式」でしたが、帰省かなわず参加しませんでした。（というかあってたこと自体を知らなかった）今は親切に、市から事前に案内が届き、それにはQRコードがついていて、様々な情報をキャッチできるのです。

集いは、若者（実行委員）が進行し、高校生プラスバンドの演奏があり、わたしがイメージしていたものとはかなり違った（よい意味で）集いでした。その中で、ある若者の決意に感動しましたので紹介をします。

「わたしは、〇〇に勤めて2年目になります。高校を卒業する時に、自分の進路についてかなり悩みました。しかし、家族や友人、多くの支えていただいている方々のアドバイスをもとに、今の職場で働くことを決めました。初めは慣れないことも多く悩むこともありましたが、今ではいくつかの仕事を任せていただき充実しています！！これからも、故郷の発展のために全力で頑張ります。」といった内容でした。二十歳の若者の決意です。「いろいろあったのだろうな。苦しかったのだろうな。」と考えていると、涙が出ていました。自分も、まだまだ故郷に貢献しなければと決意を新たにできました。この話には続きがあります。



帰宅し、末娘（二十歳の集いに参加するために帰省していました）とした会話です。

私「今日決意を発表した人の話の内容は、すごく良かったね。」

娘「私の中学生の頃と同級生で、同じクラスだった友達よ。ほら体が大きく、〇〇が強かった〇〇君さ。お父さんも話したことあるたい。」

私「えっ？そうだったんだ、すごく成長していたね。体つきが変わっていたので、分からなかったよ。」

娘「高校でも部活を続け、いくつかの大学から推薦での誘いがあったみたいだけど、就職するか進学かでかなり悩んでいたらしいよ。わたしも聞いた時びっくりしたよ。」

若干十八歳での進路選択。どちらが正解なんて誰にも分からないし、言えません。自分自身で決めたそうですが、続けていた競技は、プロの道もある競技です。かなり悩み、熟考を重ねたことは安易に想像できます。このような若者が「ふるさとの発展に寄与したい」と決意を表明する姿に、勇気と元気そして感動をいただきました。

二十歳の集いに参加させていただき本当によかったです。二十歳の皆さんは、旧友と話が弾み、杯を酌み交わし、昔話に花が咲いたことでしょう。そのことが、「また頑張ろう！！故郷をいつまでも大切に思おう！！」という気持ちに繋がるのだろうと思いました。

会場を後にする際、数名の成人の皆さんや保護者の方から「永井先生ですよね。」と話しかけられました。担任でもなかったのに、覚えていただいていたのだと嬉しくなり、「本野小でがんばっています！！」と伝えました。改めて自らの職責の重さに気付かされた一日でした。

諫早市で成人を迎えた皆さんの未来が 幸多からんことを祈ります

